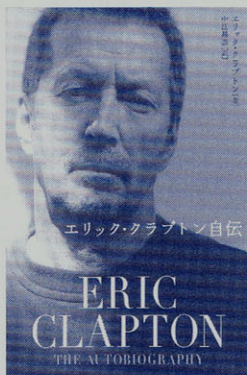


## I N F O R M A T I O N

## ■クラプトン自伝、邦訳で登場

昨年、英米で刊行されベスト・セラーを記録したエリック・クラプトン執筆による自伝本の邦訳版がイースト・プレスより発売された。『エリック・クラプトン自伝』（中江昌彦：訳／四六判／492頁／税込み2,940円）は、その生い立ちからプロ・デビュー、さまざまなバンドでの活動や私生活について赤裸々に綴っている。クラプトン・ファンはもちろん、ロック・ファンであれば興味をそられる内容になっている。



## ■ツェッペリン、E式で紙ジャケ再発

昨年末に行なわれた“アーメット・アーティガン・トリビュート”において一夜限りの再結成を果たしたレッド・ツェッペリン。今年はバンド結成40周年ということで、彼らの10作品がUK仕様のE式で紙ジャケ再発されることになった。今回再発となるのは『レッド・ツェッペリン』『II』『III』『IV』『聖なる館』『フィジカル・グラフィティ』『プレゼンス』『永遠の詩（狂熱のライブ）～最強盤』『イン・スルー・ジ・アウト・ドア』『コーダ（最終章）』の10タイトル。しかも高音質CD“SHM-CD”を採用ということで、さらなる音質向上が期待できそう。ワーナーより8/20に発売予定。完全生産限定なので、お買い逃しのないように！

## ■東京ジャズ2008

8/29（金）～31（日）の3日間にわたって東京国際フォーラム（ホールA）にて開催される“東京JAZZ FESTIVAL 2008”に、新たにスライ&

ザ・ファミリー・ストーンの出演が決定した。主な出演者は次の通り。8/29（金）：日野皓正クインテット／ロン・カーター・カルテット／デヴィッド・サンボーン、8/30（土）：上原ひろみ／ザ・グレート・ジャズ・トリオ／ミシェル・カミロ・トリオ他、8/31（日）：ロベン・フォード／サム・ムーア／スライ&ザ・ファミリー・ストーン／フォープレイ他。詳しくは公式HPにて。

<http://www.tokyo-jazz.com/>

## ■映画「アクロス・ザ・ユニバース」

ミュージカル『ライオンキング』や映画『タイタス』『フリーダ』を手掛けたジュリー・テイモアが監督を務めた話題の映画『アクロス・ザ・ユニバース』（東北新社：配給）が、8/9（土）より渋谷アミューズCQN、シネカノン有楽町、新宿バルト9他にて全国ロードショーされる。この映画の大きな話題は、なんとといっても全編にわたって使用されているおなじみのビートルズ・ナンバーだ。といってもビートルズによるオリジナル・テイクが流れるわけではなく、斬新なアレンジのもと、出演者たちによって歌い上げられている。ミュージカル仕立てのこの映画、ストーリー展開のうまさとビートルズ楽曲との巧みな組み合わせは見事の一言。ちなみに、U2のボノやジョー・コッカーもカメオ出演しているのでチェックをお忘れなく。

<http://across-the-universe.jp/>



©2007 Revolution Studios Distribution Company, LLC. All Rights Reserved.

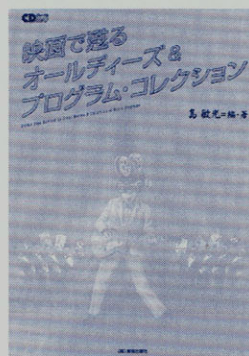
## ■エイジアのバイオ本

5月の来日公演も記憶に新しいエイジアだが、彼らのバンド歴を詳細に綴ったバイオグラフィ本『エイジア ヒート・オブ・ザ・モーメント』（B5

判／232頁／税込み2,940円）がマーキーより刊行された。デヴィッド・ギャラント：著、金子みちる／宮坂聖一：共訳による本書は、オリジナル・メンバー4人の活動歴から、エイジアの結成、解散、再編までを、メンバーや関係者らの証言をもとに検証している。新旧写真で構成されたグラビア・ページもファンには嬉しいところだ。

## ■映画プログラム満載のムック

島敏光：編・著によるムック『映画で甦るオールディーズ&プログラム・コレクション』（音楽出版社／税込み2,100円）は、1955年から2000年までの映画プログラム約350点をオール・カラーで掲載した映画マニア必読の書となっている。巻末には「特別対談：大瀧詠一×高田文夫」も収録されている。バラバラとページをめくっているだけで映画が観たくなる1冊だ。



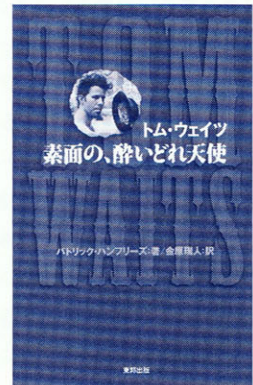
## ■ビストルズの検証DVD

“サマソニ08”への出演、そしてこの号の巻頭を飾ったジョン・ライドン＝セックス・ビストルズだが、関係者へのインタビューで構成されたドキュメンタリーDVD『セックス・ビストルズ・オルタナティブ・ヒストリー』（ワーナー©WPBR-90684／約94分）が発売された。グレン・マトロック以外のメンバーは登場しないものの、当時を知るための貴重な証言の数々が収められている。なお、アラン・パーカーによる渾身の評伝本『シド・ヴィシャス伝（仮）』もこの秋に弊社より刊行予定なので、こちらも楽しみに！

## ■トム・ウェイツ本

ハリウッド女優のスカールレット・ヨ

ハンソンが自身のファースト・アルバム『レイ・マイ・ヘッド』の全編にわたって取り上げたことでも話題の“ロック詩人”トム・ウェイツ。『酔いどれ天使の唄』の著者であるパトリック・ハンフリーズによる最新のトム・ウェイツ評伝本『トム・ウェイツ 素面の、酔いどれ天使』（金原瑞人：訳／四六版／536頁／税込み2,730円）が東邦出版より発売された。前作『酔いどれ天使の唄』以降の18年間を新たに付け加え、装いも新たに編纂された本書は、トム・ウェイツという魅力溢れるアーティストを知り尽くす最良の1冊となっている。



## ■レコジャケで聴く本

本誌執筆者としてもおなじみの音楽ライター／小尾隆氏による書籍『US Records』（春日出版／税込み2,940円）が発売された。副題には「レコード・ジャケットで“聴く”アメリカン・ロック」とあり、氏の音楽歴に沿って60～70年代の米国ロックを中心としたレコード・ジャケットがオール・カラーで掲載されている。7月中旬にはUK編の刊行も予定されており、2冊合わせておよそ850枚ものレコジャケを収録する予定。

